

議会報告会を経て合意形成を図った意見・要望

○大牟田市動物園・延命公園周辺を核とした観光客の回遊性向上

大牟田市動物園・延命公園周辺を核とした観光の回遊性を向上させるため、動物園で学生主催のイベント等を開催し、あわせて体育館などでのイベントを連携させることで、集客向上と延命公園周辺の回遊性を生み出されたい。

加えて、延命公園周辺から市内への人の流れを創出するため、動物園、ともだちや絵本美術館と連携し、市内に絵本の世界観の町並みを再現することや、キャラクターを設置することなどの取組も検討されたい。

(回答)【市民協働部、産業経済部、都市整備部】

延命公園地区の魅力向上、回遊性向上に向けては、庁内関係部署にて連携会議を設け、協議・検討を進めております。

まず、市内外から来訪された方に、各施設の位置を分かりやすく示すため、延命公園地区の入口となる飲食店「アモンド」付近の交差点に案内板の設置を検討いたします。この案内板は、InstagramなどのSNS利用者の撮影スポットとしても活用できるようなデザインとしたいと考えております。

また、延命公園内においては、新たな総合体育館「おおむたアリーナ」の整備をはじめとする延命公園地区における各施設整備に合わせて、公園内各所に総合案内板等を設置するほか、新たに公園内の散策マップを作成し、動物園や体育館で配布することにより、それぞれの施設にお越しになる方に公園内の回遊を促してまいります。

更に、延命公園地区の整備に合わせ、このエリアに愛着をもっていただくため、付近の道路に愛称を付ける取組みも検討します。

このほか、4月のおおむたアリーナの開館に合わせて、関係部局が連携して共同イベントを実施することとしており、エリアの魅力向上につなげてまいります。

なお、学生の皆さまが主催されるイベントに関しては、にぎわい創出を図る有効な取り組みであり、動物園と協議の上、実施していきたいと考えておりますので、市内の各学校に、案内・相談してまいりたいと考えています。

つぎに、延命公園周辺からの人の流れの創出に関して、絵本の世界観の町並みを再現することやキャラクターの設置についてご提案いただいていることにつきましては、どのような世界観やキャラクターを選定するのか、設置等の費用をどのように負担するのか等、様々な課題がありますことから、今後、長期的な視点で検討をしていく必要があると考えております。

市としましては、動物園や延命公園地区にお越しになられた方が市内を回遊いただくことは重要なことであると考えております。このため、令和5年に開設しました市公式観光サイトである「おおむた One plate」の QR コードを掲載したチラシを作成し、動物園やおおむたアリーナ等公園内の施設に設置することで、来園者が公園内を楽しんだ後に飲食店や観光スポットを回遊いただけるようにしてまいりたいと考えております。

このほか、延命公園やおおむたアリーナなどでのイベント開催時にも、主催者と協力し、散策マップや QR コード掲載チラシを参加者へ配布するなど、官民連携により回遊を促す方策を進めてまいります。

○動物園でのイベントによる集客向上と情操教育

大牟田市動物園については、集客向上の施策として、多くの学生から動物との触れ合い体験や餌やり等のイベントの開催が提案されていることから、子供たちの情操教育の観点も踏まえ、これまでのイベントの継続に加え、新たなイベントの開催にも取り組まれます。

(回答)【産業経済部】

令和5年に策定しました大牟田市動物園整備基本計画においては、将来展望として「みんなが憩い、笑顔あふれ、人と動物が幸せになる動物園」を基本コンセプトに掲げ、「動物福祉と命の大切さを伝える動物園」「市民生活の充実と発展を支える動物園」「子供たちの喜びや学びの場としての動物園」「持続可能な保全施設としての動物園」を4つの柱を軸にさまざまな取り組みを行っていくこととしております。このうち、「子供たちの喜びや学びの場としての動物園」については、生き生きとした動物を身近に観察できる場の提供をはじめ、ヒツジなどの家畜種と子供が関わる機会を提供することとしております。

こうした将来展望の下、市動物園では、令和9年3月にかけてモルモット、レッサーパンダ、キリンの3種の飼育施設の整備を進めていくこととしており、動物にとっては、飼育施設が拡張・充実されることで、野生下における生活環境に近い環境が整備され、動物本来の姿が引き出されるものと考えております。来園される皆様ととも、動物たちが、より生き生きと活動する様子を、間近で観察できるようになります。さらに、京都市動物園の「テンジクネズミ¹のすきをMIKKE(みっけ)」というイベントのように、箱やワラなどを置いて動物の部屋をつくり、動物たちがその部屋をどう使うのかを観察することを通して、動物の行動の視点から人と動物との関わり方を考えていく取り組みもできるようになります。

このように、今回の整備に伴い、来園される皆さまに更に楽しんでいただけるような新たな展示・観察イベントを企画・実施していくこととしており、より野生での環境に近い動物の姿を見学・観察することを通して、生命の大切さを学ぶ機会につながるものと考えております。

市動物園では、「動物福祉を伝える動物園」として、環境エンリッチメント²やハズバンダリートレーニング³など動物たちの生活の質の向上を目的としたさまざまな取り組みを通して、動物福祉について理解を深めてもらう努力と工夫を重ねてきています。その中で、ライオンの肉探しタイムをイベントとして来園者に見てもらふことなど、動物

¹ モルモットのこと。

² 動物たちが心身ともによりよく生活できるよう環境を豊かにする

³ 動物の心身の健康管理に必要な行動を動物たちに協力してもらいながら行うトレーニング

へのストレスにも配慮しつつ、直接的に動物に触れなくても楽しんでいただけるような創意工夫を重ねています。また、動物に直接関わる飼育員体験などの人気イベントも継続して行ってまいります。

動物に直接触れることについては、動物のストレスを伴うことから動物福祉の点では難しい面もありますが、子どもたちをはじめとするすべての来園者に、参加型・体験型のイベントを通して、命の大切さを伝え、生き生きとした動物の姿を楽しんでもらえるよう、引き続き、指定管理者とも協議しながら、創意工夫を重ね、さまざまな新たなイベントに取り組んでまいりたいと考えております。